

女性の活躍応援団支援事業【神奈川県】

地域の実情と課題

企業等における女性活躍推進の取組みは徐々に拡大しているものの、神奈川県では、長時間労働や長時間通勤(全国1位)により、仕事と家庭の両立は容易でなく、2015年の国勢調査結果においても、いわゆるM字カーブ(出産育児等を理由として離職する女性の比率等)の底の値、深さは、全国最下位となっている。また、県内民間事業所の管理職に占める女性の割合ははまだ8.1%(2019年神奈川県)と低い状況である。このような状況を反映して、「子どもができてからもずっと働き続けたい」とする女性の割合も低くなっている。

事業の特徴

「かながわ女性の活躍応援団」のメンバー企業等との協働により、女性活躍推進の社会的ムーブメント拡大に向けた次の事業を実施

- ①行動変革を促す啓発講座等の実施
- ②テーマに関する取組内容等の冊子・Webサイトでの具体的な取組みの発信
テーマ:女性活躍推進のための「男性の行動変革」を促進する取組み
- ③かながわ女性の活躍応援サポーターのコミットメント強化(応援サポーター交流会の実施等)
- ④「男性×家事育児×オープンイノベーション・コンソーシアム」の運営・情報発信

事業の効果

- 啓発講座では、新型コロナウイルスの影響により思うように開催できない状況であったが(2,000人受講目標)、実地での進路学習が滞ってしまった中学校から「理工系キャリア支援講座」の依頼があり、応援団員企業等から女性技術者等を派遣し、実体験を話してもらったことで、生徒たちが性別に関わらず自分らしい生き方や働き方を考えるきっかけを提供できた。(495人受講)
- 取組紹介冊子では、「女性活躍推進のための『男性の行動変革』を促進する取組み」をテーマに応援団員企業の取組みを紹介するほか、中小企業向けページやQ&A等を設け、冊子の他Webサイトでも情報発信したことにより、大企業だけでなく、県内の中小企業の参考とすることができた。

目的・目標

- 県内企業の9割を占める男性トップの意識改革を行うことが極めて効果的という視点から、平成27年度に結成した「かながわ女性の活躍応援団」において、大企業等の男性トップのインパクトを活用し、県内中小企業等の男性トップに対して働きかけを行い、女性活躍推進のための社会的ムーブメント拡大を図る。
- 「男性の行動変革促進」を中心とした行動変革を促進するための具体的な取組みを社会的な拡がりへとシフトさせ、女性の就業継続・キャリアアップがさらに進むよう取組みを進める。

連携団体

- 「かながわ女性の活躍応援団」団員企業等(アイネット、アサヒビール、アツギ、麒麟ビール、京浜急行電鉄、JFEスチール、資生堂、第一生命保険、高島屋、ツクイホールディングス、飛鳥建設、日揮ホールディングス、日産自動車、日本発条、ファンケル、富士通、富士フィルムホールディングス、富士屋ホテル、横浜銀行、横浜国立大学)、応援サポーター企業等41社、特定非営利活動法人日本女性技術者科学者ネットワーク
- 「男性×家事育児×オープンイノベーション・コンソーシアム」参加企業、NPO
- 市町村

今後の課題

新型コロナウイルス感染症により、人々の働き方やライフスタイルが変化する中で、男性の行動変革を含め、この未曾有の事態を乗り越え、経営回復や企業成長につながる、女性活躍の一層の拡大が求められている。

このような状況だからこそ、引き続き、団員の社会的インパクトを活用し、啓発講座等への講師等派遣、先進的な取組みを行う応援団員や応援サポーターの取組紹介冊子の作成等、より実践的な活動を通じて、社会的ムーブメントの更なる拡大を図っていく必要がある。

事業の概要

行動変革を促す啓発講座等の実施

実施日	実施主体	講演会等の名称	講師派遣企業等	実績(人)
10月1日	藤沢市立秋葉台中学校	理工系キャリア支援講座 オンライン (Webex)	富士通 JNEWS※	114
10月17日	第一生命保険	お父さん親子料理教室 オンライン (zoom)	横浜保育福祉専門学校	34
1月22日	神奈川県	「かながわ女性の活躍応援サポーター」企業交流会	向洋電機土木	14
2月1日	横浜市立あざみ野中学校	理工系キャリア支援講座	日揮ホールディングス JNEWS※	204
3月1日	大和市立下福田中学校	理工系キャリア支援講座	日本発条 JNEWS※	103
3月23日	川崎市立南生田中学校	ジェンダー平等を実現させるために今、わたしたちにできること	神奈川県	26
啓発講座等 計6回				495

※JNEWS…特定非営利活動法人日本女性技術者科学者ネットワーク

かながわ女性の活躍応援サポーターの コミットメント強化

○応援サポーター交流会の実施

- ・日時: 令和3年1月22日(金曜) 13:30~14:35
- ・開催方法: オンライン(zoom) ・参加者: 14名
- ・内容: ①事例発表 「中小企業におけるwithコロナへの対応
—テレワーク導入・女性活躍推進の視点から」
講師: 横澤 昌典氏(向洋電機土木株式会社 CHO 広報部長)
- ②参加者同士の意見交換「“withコロナで変わった・工夫したこと”」

「男性×家事育児×オープンイノベーション・コンソーシアム」の運営・情報発信

○団長(知事)の行動宣言の一つ「男性の意識改革の行動変革へのシフト」の主要事業の一つとして、県(かなテラス)が事務局機能を発揮して実施するもの。男性の家事育児が十分なレベルで日常的に当たり前となる社会環境を形成するため、以下の内容で実施。

- ・メンバー同士のネットワーク構築のため、オンラインでメンバー同士がつながり、課題解決に向けた意見交換を行う場の提供を行い、参加者同士のコラボを促した。
- ・公式Webサイトにおいて、より実態に即した情報提供が発信できるようにするとともに、11月に開設したコンソーシアムTwitterをWebサイトからもアクセスできるようにするなど、改修を行い、男性の家事・育児に関連する情報を発信した。

テーマに関する取組内容等の冊子・Webサイトでの具体的な取組の発信

○団員企業等の取組紹介冊子の作成

- ・テーマ:
女性活躍推進のための「男性の行動変革」を促進する取組み
- ・内容:
応援団員企業等の取組紹介ページ、中小企業向けページ、男性の行動変革を進める上でのQ&Aページ等
- ・作成部数: 5,000部
- ・配布先: 県内企業や経済団体、市町村男女共同参画主管課等



○Webサイトでの情報発信

- ・Webサイトに、冊子掲載の「男性の行動変革Q&A」等を掲載し情報発信を行った。
- ・女性活躍推進のムーブメント拡大に向け、応援団員の取組事例をより効果的に発信し、女性活躍に取り組みたいと考える企業がより活用しやすいよう、改修を行った。

ライフキャリア教育かながわモデル発信事業【神奈川県】

地域の実情と課題

- 神奈川県は
 - ・全国の中でも長時間労働、長時間通勤の傾向
 - ・M字カーブの谷の底の値、深さともにワースト1⇒管理職に占める女性の割合も低い。
- 本県の若年層は、理想の家庭像として「男女共同参画」が望ましいものの、現実には「育児は女性が中心」と考えており、そうした意識には特に女性の保護者の考え方など、家庭環境の影響が強く現れていることが、意識調査の結果から伺える。

事業の特徴

- 高校生向け啓発冊子及び高校教員向けのリーフレットを作成することにより、高校における取組みの一層の普及を図った。
- 文系・理系など、将来につながる進路選択の手前の段階にいる中学生に向けた取組の普及啓発のため、中学教員向けリーフレットを新たに作成

事業の効果

- 高校でのライフキャリア教育啓発冊子の活用アンケートでは、県内高校の54.1%で活用され、ライフキャリアに関する情報を、自身の進路や将来の働き方・生き方を考える上での参考としていただけた。
- 中学生向けライフキャリア教育プログラムについては、教員向けのリーフレットを作成し、授業の進行例を示すなど、周知啓発を行った。

目的・目標

- 就職前の若年層(高校生、中学生)を対象に、ライフ(生活)とキャリア(仕事)を一体的に考え、固定的性別役割分担に捉われることなく自身のライフプランをデザインする力を育成することで、本県の女性の活躍を一層推進する。

【目標】

高校でのライフキャリア教育啓発冊子の活用
【目標】70.0% ⇒ 【実績】54.1%

連携団体

- 女性活躍推進に関する取組に係る情報交換会
 - ・・・神奈川県労働局、各政令市、(一社)神奈川県経営者協会等と本事業に関する情報提供を行うとともに協力を依頼
- 県内市町村
 - ・・・市町村会議で、本事業に関する情報提供を行うとともに協力を依頼

今後の課題

- 県内の多くの高校で、改定後の高校生向け啓発冊子を授業等で活用していただけるよう働きかけを行うことが必要
- 令和元年度に作成した中学生向けプログラムを、県内の中学校に広く周知し活用を促していくことが必要

事業の概要

高校教員向け及び中学教員向けリーフレットの作成

○ライフキャリア教育事業を各学校でさらに活用していただくため、本事業及び教材についての教員向けリーフレットを作成配布し、さらなる周知を図った。

[リーフレットの掲載事項]

- ・教材のねらい、準備手順
- ・授業の進行例
- ・出前講座や試行を体験した生徒の声
- ・アンケート結果
- ・Q&A

高校生向け啓発冊子「mirai book」の印刷配布

○令和元年度に改定した高校生向け啓発冊子について、男女共同参画の視点から、将来の働き方・生き方を具体的に考えるきっかけづくりとなるとともに、高校でより活用してもらえよう、一部内容を更新し、冊子の印刷配布を行った。

[主な更新事項]

- ・グラフやデータを最新の調査結果を反映させた。
- あわせて、解説も最新の状況を反映させた。